

Title	WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター) インターンシップ・プログラムについて
Author(s)	福原, 美穂
Citation	目で見るとWHO. 2013, 51, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86728
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター) インターンシップ・プログラムについて

WHO神戸センター・渉外担当官 福原美穂



Miho FUKUHARA (Ms)

奈良県出身
1998年 国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業(国際関係論)
2005年 英国ブラッドフォード大学大学院修士課程修了(紛争解決学)
2000年4月 NPO法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)に入る
2000年11月～2003年7月
イラク北部クルド人自治区で現場

責任者として国内避難民・難民・帰還民支援やイラク緊急救援事業にたずさわる。

2004年4月～ 1年間、テレビ朝日「報道ステーション」レポーター
2005～2008年 PWJ イラク現地代表
2009～2010年 国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)本部渉外官(東エルサレム)
2010～2011年 UNICEF ニューヨーク本部 Intergovernmental Affairs Officer
2011年3月～7月 UNICEF職員として日本ユニセフ協会に派遣され、東日本大震災緊急支援本部宮城フィールドマネージャーをつとめる
2004年 ウーマン・オブ・ザ・イヤー(総合5位、リーダーシップ部門4位)
2006年 中曽根康弘賞優秀賞受賞
2003年～2005年 ロータリー世界平和フェロー
現在 WHO(世界保健機関)健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)渉外担当官
著書 「イラクの戦場で学んだこと」(岩波ジュニア新書)

世界保健機関(WHO)が定義する健康とは、「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、単に病気でないとか、虚弱でないということではない」ことです。人が健康であるためには、疾病の予防や治療、管理だけではなく、社会的決定要因、つまりは「健康の原因の原因」を把握しなければなりません。

近年、世界では都市化が急激に進行しています。1950年代には都市に集まる世界の人口は2分の1でしたが、2007年に農村部の人口を初めて上回り、2050年には世界人口の約70%が都市で生活するようになるといわれています。都市化は特に発展途上国で急激に進んでおり、都市は増え続ける人口に対応しきれていないのが現状です。

WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センタ

ー)は、社会、経済、及び環境の変化が及ぼす健康への影響、またそれらの保健政策への反映について応用研究を行うグローバル研究所として、1995年に兵庫・神戸市に設立されました。WHOのグローバル研究所は世界に2ヶ所しかなく、神戸以外には、フランス・リヨンにWHO国際がん研究所があります。

■健康格差のない社会を目指して:

WHO神戸センターの役割

WHOのグローバル研究所として、WHO神戸センターは「都市に居住するすべての人々に健康を」をビジョンとし、都市化を重要な健康決定要因と位置づけ、政策の選択肢を開発し、技術協力、能力開発、科学知識や成功事例の情報交換を支援し、都市部における健康の公平性の促進を目指しています。センターでは主に以下の3つのプログラムを進めています。

- 都市部の健康評価
- 都市部の保健行政
- 都市部の健康危機管理

加え、近年世界で進むの高齢化を踏まえ、増加する高齢者をサポートするため、既存の技術や医療、及び社会システムの強化を可能とするイノベーションについての研究も進めています。

■インターンシップ・プログラムについて

WHO神戸センターでは、WHOの活動や国際医療支援に興味のある大学院生を対象に、インターンシップ・プログラムを設けています。インターンシップ・プログラムは、参加する大学院生に対しWHOという国際機関での勤務経験の場を提供すると共に、業務経験を専攻分野や将来の進路に活かしてもらうことを目的としています。勤務地は、日本・神戸市にあるWHO神戸センター内になります。

応募資格は、20歳以上で大学院在籍中であることが条件となります。また大学院生でも、応募時に6ヶ月以内に在籍中の大学院にて学位を取得予定であることが必須となります。加え、過去にWHOでインターンシップを経験している学生は対象となりません。特に規準はありませんが、WHO神戸センターでの業務はすべて英語で行われているため、採用者はビジネスレベルの英語運用能力のある方に限られます。

WHO神戸センターでのインターンシップは、あくまで国際機関での勤務経験と研究者としての仕事を学んでいただく機会の提供を目的としており、待遇・給与についても、無報酬で交通費補助などありません。

インターンシップ・プログラム卒業時には、研究発表の機会が与えられ、その成果は毎年センターから発行されている、年次報告書で報告されます。



インターン・ボランティアの仲間

「3ヶ月続けて勤務できない」、「常勤できない」「すでに学位を取得している」など、学術的な条件は満たしているものの応募条件を満たせない方については、インターンではなくボランティアとして研究のお手伝いをしていただくこともできます。条件・応募方法については、インターンシップと同じです。



I.H.D. センタービル9階に
WHO神戸センター

■国際的、そして多文化な環境で働く

WHO神戸センターでは毎年、10名以上のインターンを採用しています。2012年度には12名のインターンを採用しました。WHO神戸センターの職員もそうですが、インターンのバックグラウンドも多様です。インターンの出身国は、日本のみならずアメリカ、ドイツ、フランス、カナダと様々です。ボランティアも、日本だけではなく中国やフランスなど、世界中からやってきます。そして、インターンやボランティアを指導する当センター職員の国籍も様々であり、インターンは神戸にしながら国際的且つ多文化な環境で、グローバルな課題について研究し働くことを期待されます。

インターンシップ、そしてボランティア・プログラムについての問い合わせは、当センターウェブサイトを参照してください。

http://www.who.int/kobe_centre/about/employment/en/index.html

WHO神戸センターは、関西地域にて国連機関でのインターンシップの機会を提供している数少ない機関のひとつです。たくさんのご応募をお待ちしています。

